

間着往々積滞ノ磊訶ナルヲ見ルモ畢竟他ノ支川直チニ決河ニ滾瀉スル有リテ之ヨリ流送スル所ノ石砾モ亦夥多ナレハナリ

岩津ヨリ下流水面傾斜勾配ノ事

岩津ヨリ下流ニ於ケル水面ノ高低及傾斜ヲ記載スル所ノ表ナル附録第一ハ唯一面ノ水準測量及僅々七箇月半即明治十六年十一月十五日ヨリ同十七年七月ノ終尾ニ至ル只短小時間ノ水準觀査事ヨリ能ク斷メ得タルノ數ニ原ツク故ニ表中新設三千分一ノ縮図ニ照據セシ川線ノ長短ヲ除クノ外ハ植數皆以テ將來改善ノ起首數ト做ス可キモノ、此表ハ又夕明晰ニ上流ヨリ諸洲澳ノ上第十村ニ至ルノ間水面傾斜ノ殊ニ大ナルヲ示ス看ナリ

洲嶼及川口ノ事

吉野川流尾ニ攢簇セル諸洲嶼ハ第十村ヨリ海濱ニ至ル長四里余アリ又津田村ノ邊ヨリ撫養海峽ニ至ルモ廣幾ント四里余アリトス。畧圖ニ之ヲ示スカ如ク流尾ニ縱横スル派川ノ

ライラ
磊訶いさま
河カノ多おほくかとなつて
滾瀉カニ合流する
夥多おほくおびたしい

傾斜

攢簇サソクニ集ること

なく洲嶼の間に砂礫が堆積している。このことは、結局この辺りに集まっている他の支流より流されてくる砂礫も甚だ多いからである。

岩津より下流水面傾斜勾配のこと

岩津より下流の水面の高低と傾斜を書いた表(付録二)は、たった一回の水準測量とわずか七か月半(明治十六年十一月十五日と十七年七月末)の短い期間の水量調査により得た數量に基づいている。このため、新しく作製した三千分の一縮図に照合した川線の長短の他は、數値は將來改訂を要する起首數と見なすべきものである。この表は、また上流より諸洲嶼の上端第十村(石井町第十)に至るまでの水面の傾斜の特に大きいことを示すものである。

洲嶼及び川口のこと

吉野川(旧吉野川)の河口に多く集まる洲嶼は、第十村より海濱に至る四里余りの間にある。また津田村(徳島市津田町)の辺りより撫養海峽に至るまでおおよそ四里余りの幅がある。略図にこれを示したように、河口に縦横に通じる派川の間、沖積土から成る洲嶼が数多くある。

※1 付録二
所在不明

※2 川線
流路の長さ

※3 略図
所在不明